

福祉つるがぬくもりプラン策定

●地域福祉を取り巻く現状

人口減少、核家族化、単身世帯の増加が急速に進む現在の日本。
敦賀市においても、社会構造の変化に伴い、家庭や地域における支え合いの基盤が弱くなつてきています。また、高齢者、障がい者、子ども・子育てといった福祉の各制度の狭間に陥った結果、困難を抱えている人も増えています。そのような現状を踏まえ、従来のように支え手側と受け手側に分かれるのではなく、誰もが役割を持って、一人ひとりの暮らしと生きがいと地域を共につくっていく「地域共生社会」を実現することによって、少子高齢・人口減少社会を乗り越えていくこととする考え方が、今後の福祉改革の基本的な考え方と位置付けられ、国を挙げて取組が進められています。

●計画策定の趣旨

平成27年3月策定の「福祉つるがぬくもりプラン（第3期敦賀市地域福祉計画）」の期間が満了することから、これまでの取組の評価を行うとともに、今後ますます複雑化・多様化していく生活課題に対し、適切に対応するために、本市の地域福祉に関する理解や取組の方向性を示す総合的な計画として、本計画を策定しました。多様化していく生活課題の解決に向けて、地域に関わるすべての人々が一体となって地域福祉を推進するための計画です。

この計画に基づいて、市民みなで将来を見据えながら、「誰もが住みたくなるまち敦賀」の実現のため、皆さんと一緒に取組んでいきます。

●計画の推進体制

地域福祉活動の主役は地域で生活している市民の皆さんです。住み慣れた地域で助け合える地域社会を実現させるため、市民の身近な地域で、主体的な地域福祉が推進されることも、市民、行政、関係機関の協働した取組が不可欠です。

その地域で暮らす市民の積極的な参画を図るとともに、各種団体などとも連携を強め、地域全体が一体となって、地域福祉活動を推進していくことが必要であり、その体制づくりにも市としても積極的な支援を行っていきます。

住民参加による支え合い活動を行い、生活関連分野の施策と連携してサービスを提供することで、住民ニーズに的確に対応します。

また、地域福祉推進の理念の普及や地域福祉推進のための事業の実施を図ります。

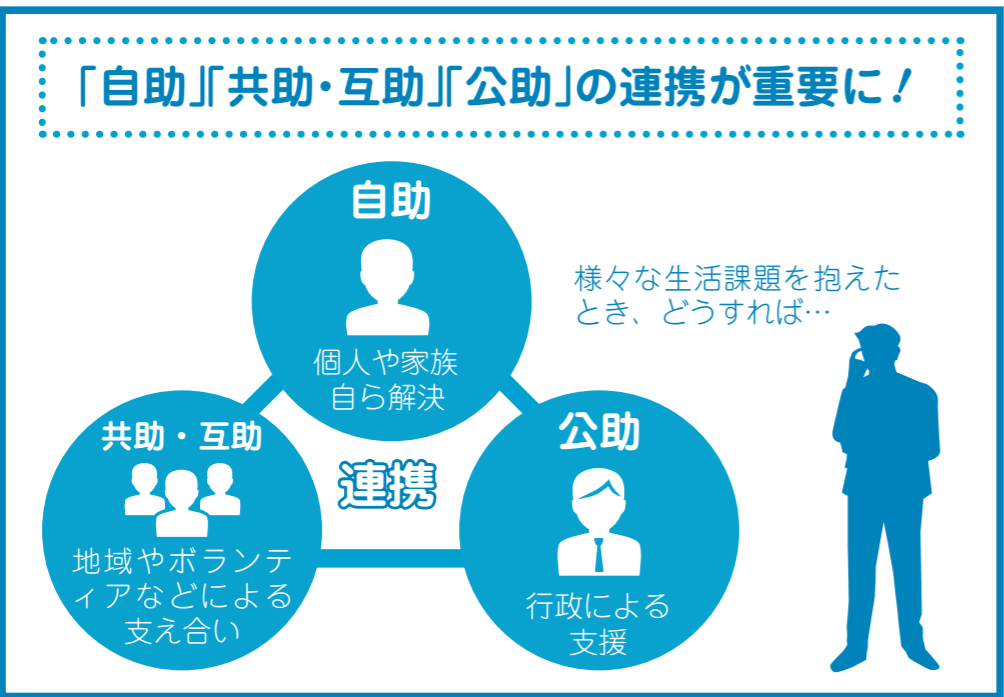
基本理念

ふれあい、支え合い、共にいきる
ぬくもりのあるまち
つるが



第4期敦賀市地域福祉計画とは

地域福祉を取り巻く厳しい現状を踏まえ、今後ますます多様化していく生活課題に対応するため、令和6年度までの5か年の計画として、「第4期敦賀市地域福祉計画（福祉つるがぬくもりプラン）」を策定しました。



これからの地域社会は、子どもから高齢者まで市民の誰もが住み慣れた地域の中で、心豊かに安心して暮らすことができ、幸せを実感できる仕組みをつくり、持続させていくことが求められています。そのためには、さまざまな生活課題について、個人や家族が自ら解決すること（自助）、地域やボランティアなどによる支え合い活動（共助・互助）、行政による支援（公助）の連携がますます重要です。第4期敦賀市地域福祉計画では、これまでの敦賀市地域福祉計画の基本的な考え方を踏まえ、地域に関わる全ての人々と行政が一体となって総合的に地域福祉を推進していきます。

3つの基本目標

地域福祉の土台づくり

近所つきあいや地域活動の参加には、福祉への関心や地域への愛着との関係関係がみられることから、住民同士や地域の団体との交流を支援し、助け合い、支え合う福祉意識の醸成を促進します。

地域全体で支え合う仕組みづくり

公的な福祉サービスにつながりにくい「制度の狭間」にある問題や複合的な課題などを解決するため、関係機関と連携し、身近な地域での相談体制を充実し、福祉サービスの充実や包括的で専門的な支援につなげる仕組みを構築します。

安全・安心に暮らせるまちづくり

「地域のごときは地域で守る」という考えのもと、見守りが必要な人が緊急時や災害時に孤立しないよう、日ごろからの見守り体制の充実や、災害時に備えた安全・安心な地域づくりのための支援体制づくりを進めます。

※詳細は市HPで公表しています。